

鉄砲伝来の地 種子島へ

日野筒鉄砲隊 出陣



▶「日野鉄砲」演武を行う



◆種子島の歴史をたどる祭典

種子島にある西之表市の市制施行50周年を記念して、8月23日(土)、24日(日)に「鉄砲伝来 今よみがえる 種子島」が種子島で開催されました。

23日(土)には、シンポジウムが行われ、「鉄砲伝来の歴史を生かしたまちづくりをめざして」というテーマで、パネルディスカッションが行われました。鉄砲太鼓の披露の後は、「鉄砲伝来研究の現在」と題した歴史講演会が開催されました。

24日(日)には、「全国火縄銃大会」が行われ、22団体の鉄砲隊(総勢240名)が全国各地から集結し、古式にのっとった火縄銃の演武が行われました。滋賀県からは、日野筒鉄砲研究会(日野)・国友鉄砲研究会(長浜)・彦根商工会議所青年部古式銃研究会(彦

根)の3団体が参加され、それぞれの伝統ある鉄砲演武をされました。

その後は、烽火^{のほし}の実証が行われ、屋久島と鉄砲を伝えた南蛮船漂着の地である門倉岬から西之表市の八坂神社まで烽火を伝達し、それを合図に「南蛮パレード」がスタートしました。南蛮船を模した山車が市内に繰り出し、鉄砲伝来に関わりの深い人物のふん装をした行列とともに、鉄砲隊もパレードに加わりました。

鉄砲伝来の地「種子島」へ日野筒鉄砲隊の皆さんが参加されたことは、大変意義深いものとなりました。

◀「南蛮パレード」で市内を歩く



※「日野筒鉄砲」については「炮」の字を使用しています。



◆日野筒を後世へ： —日野筒鉄砲研究会—

「日野筒」は、蒲生賢秀公（氏郷の父）の指揮により生産が開始されました。

その技術は幾多の戦乱の中で鍛え上げられ、発注主の好みに応じた、非常に精密で多様な完全注文生産を得意とし、江戸幕末まで、その生産が続けられました。現在でも町内に現存する「上鍛冶町」「下鍛冶町」などの地名が当時の繁栄をしのばせています。

当時の主要産業として栄えた「日野筒」を後世へ継承するため、昭和60年11月に発足した「日野筒鉄砲研究会」は、町の発展を願って、現在も研究活動を進められています。



日野筒鉄砲研究会の皆さん



▲日野筒鉄砲研究会の皆さんと、当日参加された関係者の方々。鎧姿が、当時の姿を思い起こさせます

8月24日（日）に開かれた「第39回種子島鉄砲まつり」で日野鉄砲を演武された皆さん。日ごろの研究会の活動などを、会長の小林道男さんにお聞きしました。

今回、種子島で日野鉄砲の演武をされた「日野筒鉄砲研究会」の皆さんは、8名で活動されています。昭和60年の発足以来、日野鉄砲を多くの人々に伝えるため、25年もの間活動を続けておられます。

今までに、22もの団体が集結して、それぞれの鉄砲演武をされる機会がなかったそうです。会が発足して以来、鉄砲伝来の地である種子島で演武するのは、皆さんの夢でもあったそうで、それが、今回、市政50周年ということで大きな催しが行われ、ついに皆さんの夢が叶ったとのことでした。当日は大変迫力あるものだったそうです。

鉄砲には細筒から大砲のような太いものまで種類がありますが、日野鉄砲は細筒・中筒があり、練習では細筒・中筒を使用されているそうです。その重さはかなりのもの。優に中筒は10kgは超えています。

日野では、年に一度、「氏郷まつり 楽市楽座」の産業フェアに、日野鉄砲の演武をされます。また、松阪や会津若松、大阪など、全国から依頼を受け、日野鉄砲の演武をされています。イベントの前には、日野川ダムグラウンドで、膝撃

ち、立ち撃ちなど、さまざまな撃ち方の練習をされます。火縄銃は1回に弾が1発しか出ないため、連発するには、数人が編成を組む必要があります。そのような練習もされるとのことでした。タイミングを合わせるのが大変重要になります。

25年間も活動が続いているのも、日野鉄砲を後世へ伝えていくため。「これだけのものが約450年も前に作られ、全国へと渡っていました。種子島に鉄砲が伝来して12年後に日野で作られていたことは、日野商人の活躍もあったからこそです」と当時の日野商人のすばらしさを振り返られました。

会長の小林道男さんは、日野の鉄砲鍛冶であった「小林真平氏重」の子孫であり、そのことが研究会活動を始めるきっかけにもなったそうです。「資料館を作るなど、日野鉄砲を知ってもらえる場所がもっとできればと思います」と語られました。演武に使用される鉄砲は、すべて会員の皆さん個人のもの。非常に高価ですが、「好きだからこそ続けられます」と、日野鉄砲伝承への思いを語ってくださいました。

◆日野鉄砲 まめ知識

1. 火縄銃のカラクリ

林さん
日野鉄砲を持つ会長の小林さん



火縄銃を撃つには、縄に火をつけて、火が弾に届くまで待たないといけないと思っておられる方も多いのでは？実は、「火挾ひばさみ」に縄を付け、「引金ひきがね」を引くと、「火皿ひざら」においた火薬に火を付けることができ、すぐに発射できます。

2. 鉄砲に彫られた職人技！

鉄砲といっても、大名などが調度品として所有していたものもあり、文字や家紋、柄などが彫られ、美術工芸品になっています。



▲家紋と美しい模様がほどこされています

3. 鉄砲に関係する地名あり

大窪に「上鍛冶町」、「下鍛冶町」、村井に「鍛冶今町」という地名があります。「鍛冶」とは、「金属を打ちたたいて器械や器具を作る・こと（職人）」という意味があり、鉄砲鍛冶が住んでいたと思われます。

また「下鍛冶町」の南には「玉受山」と呼ばれる小高い丘があります。「日野鉄砲」の性能を試したところと言われ、鉄砲の玉を受けた山ということから名づけられたと言われています。

4. 日野商人と鉄砲の関係

大坂冬の陣終了後には、徳川家から日野鉄砲300挺ちやうの製造依頼を受けています。徳川家が天下を取ることが出来たことにも、「日野鉄砲」は関連しています。そのため、日野商人は徳川幕府で保護され、代金を支払わない客に対して、幕府が代わりに代金の取り立てをしたと言われています。

5. 日野の鉄砲鍛冶は優れていた！

古文書によると、「日野に大阪・堺の鉄砲鍛冶の息子たちが研修に来た」という記録が残されています。それほど日野の鉄砲鍛冶は優秀だったようです。

6. 日野鉄砲演武を見るには…

年に一度、「日野筒鉄砲研究会」の皆さんによる「日野筒鉄砲術演武」を見ることができなのが、「氏郷まつり“楽市楽座”～産業フェア～」です。

今年も、「氏郷まつり“楽市楽座”2008～産業フェア～」と題し、10月25日(土)、26日(日)に日野町役場周辺で行われる予定です。



近江日野商人館に
「日野鉄砲」が
常設展示されています



入館料
大人 300円
小・中学生
120円
月・金 休館

開館時間 午前9時～午後4時
電話52-0007 有線5-1019

日野に伝わるすばらしい歴史。
古きよき伝統を知り、わたしたちのまち「日野」のすばらしさを後世に伝えていきましょう。